

# 台風第15号の接近に伴う農作物等の技術対策について

令和元年9月6日  
農林水産部担い手支援課

令和元年9月5日の気象庁の発表によると、台風第15号は、5日15時現在、南鳥島近海にあって、1時間におよそ20キロの速さで北西へ進んでいます。今後、台風は発達しながら北西に進み、その後は次第に北よりに進路をかえて、8日から9日にかけて西日本や東日本に接近するおそれがあり、千葉県にも影響を及ぼす可能性があると考えられます。技術対策を送りますので、以下の事前対策を、台風接近前に行いましょう。事前対策にあたっては、農林水産省のチェックリストなども参考にしてください。

事後対策等の作業は風雨がおさまってから行います。特に、水路や傾斜地においては台風通過後も洪水や土砂崩れのおそれがあるため、十分に注意しましょう。

豪雨、台風等の異常出水時においては、農作業及び農地・農業用施設の見回りは気象情報を十分に確認し、これらの状況が収まるまでは行わないなど、人命を最優先に二次災害の防止を徹底するようお願いします。

## (塩害・潮害対策)

海岸に近い場所などでは、塩害回避のため事前に真水を準備しておき、降雨後に潮風が吹いた場合は、動力噴霧機等で出来るだけ速やかに大量の水を散布し、葉に付着した塩分を洗い流しましょう。

## 1 施設等

### 事前対策

- (1) ビニールハウスは、外周を見回り、押えのバンドでフィルムをしっかりとめ、窓、出入口は閉めて固定する。特に妻面に近い部分は、バンドを締め直し、バンドを追加したり、防風ネット等で押さえる。できれば風当たりが強い外側の棟などを補強する。また、被覆資材に損傷箇所があれば、直ちに補修する。
- (2) ガラスハウスは、窓、出入口を閉めて、固定する。
- (3) ビニールハウス・ガラスハウスのいずれも、ハウスの周囲に風で飛ばされるものがないように、周辺を片付ける。また、排水状況を確認し、排水溝の整備に努める。
- (4) ハウス周辺にある風で飛ぶようなものを片づける。
- (5) ハウスの出入口等開放部はしっかり固定してハウス内に風が入らないようにする。

### 事後対策

- (1) 破損した場合は、速やかに補修を行う。
- (2) 施設周辺に湛水している場合は、速やかに排水溝を掘り、排水に努める。
- (3) ハウス内に雨水が流入した場合は、できるだけ速やかに排水し、水が引いた後に、

ベッドを整形するとともに中耕する。

(4) ハウス内に雨水が流入する等により、内部が多湿になって病気が発生しやすくなるので、防除指針に従い殺菌剤を散布する。

また、根の活性が低下するなど薬害が発生しやすい状態にあるので気をつける。

## 2 露地野菜

### 事前対策

(1) 排水の悪いほ場では、あらかじめ排水溝などの整備をして、冠水や滞水に備える。

(2) ネギ、果菜・葉菜類など茎葉の被害により大きな減収や品質低下が予想される野菜では、

ア あらかじめ土寄せをして倒伏予防を行う。

イ 支柱強度や結束部分の確認をして弱い部分は補強をする。

ウ 防風網や不織布などでべたがけをして茎葉や果実の傷みを防ぐ（資材が飛ばされないように注意し、台風通過後は速やかにはがす）。

(3) キャベツ、ブロッコリー等の苗や葉物類は、通気性の良い寒冷紗や不織布をべたがけする。

(4) 秋どりえだまめについては、表面の排水溝や暗渠排水溝を点検し、速やかに排水できるよう備える。

### 事後対策

(1) 速やかにほ場の排水を図る。

(2) 栽培中の作物には、防除指針に従い殺菌剤を散布し病気の予防に努める。根の活性が落ちるなど、薬害が発生しやすい状態にあるので気をつける。

(3) 栽培中の作物では、土壌の表面が乾いてきたら、追肥用化成などを用いて追肥を行い、軽く中耕を行うことにより、生育の回復を促す。

(4) ネギが倒伏した場合は、丁寧に起こす。

(5) コカブ・コマツナ等で発芽前の種子が流されたり、発芽直後で損傷の激しい場合は、速やかにまき直しを行う。

(6) 冠水したほ場のサツマイモは、掘り上げた後、軒下等に仮置きし、腐敗や傷みがないか確認してから出荷する。

## 3 果樹

### 事前対策

(1) ナシ（ブドウなどの棚仕立ての樹種もこれに準ずる。）

ア 多目的防災網の設置の有無にかかわらず、棚が上下して果実が落下するのを防ぐため、棚の所々に振れ止めを設置する。（事前にブロック、肥料袋に土を入れる、等の重石を園内に準備しておく。）

棚から針金などたらし、重石をつけて棚が振れないようにする。

- イ 多目的防災網を設置してある園では、押え紐や控え紐（網が風で飛ばされないように、所々に網から引いてある紐）の補強を行う。
- ウ 防風垣、防風網の補強整備をする。
- エ 主枝、垂主枝、側枝を柵へ結束する。
- オ 排水条件の悪い園では滞水しないよう整備する。

## (2) 果樹全般

- ア 支柱の取り付けを行う。主幹には、竹や丸太などで三方から支柱を取りつける。
- イ 主枝、垂主枝、側枝も果実が大きくなって下がってきているので、支柱を取りつける。
- ウ 水田等排水の悪い園では、滞水しないようはけ口をつくっておく。

## 事後対策

### (1) ナ シ

- ア 葉の損傷の激しい園では、輪紋病の多発生が予想されるため、防除指針に従い台風通過後、できるだけ早く殺菌剤を散布する。
- イ 落果した果実は早めに処分する。
- ウ 枝折れが発生した場合は、その基部から切除し、切り口にトップジンMペーストを塗布する。

### (2) イチジク、キウイフルーツ、ブドウなど

- ア 葉の損傷の激しい園では、防除指針に従い殺菌剤を散布し、病害感染を予防し葉を健全に保つようにする。
- イ 傷害果等は早急に園外に持出し処分する。

### (3) 果樹全般

- ア 樹が倒伏したものは、無理のない範囲で徐々に起こし、土寄せし支柱を立てる。
- イ 園の排水に心がけ、滞水した場合は速やかに排水を図る。
- ウ 多目的防災網の防風ネットが破損した園では、ただちに修理し、次の災害に備える。
- エ 収穫期を控えた果樹に農薬散布を実施する場合は、特に収穫前使用日数に注意する。

## 4 露地花き

### 事前対策

- (1) 排水の悪いほ場では、あらかじめ排水溝などの整備をして、冠水や滞水に備える。
- (2) 支柱の打ち増しやフラワーネットの点検・補強を行う。
- (3) 小ぎく・アスター・けいとう・ひまわりなど、茎葉の被害により大きな減収や品質低下が予想される花きでは、防風ネットを張る。

### 事後対策

- (1) 風により折れた枝や株は整理し、倒伏した切り花類は枝の曲がらないうちに無理のない範囲で早く立て直し土寄せする。
- (2) 数時間滞水した苗物や鉢物は、その後乾燥ぎみに管理する。また、多湿により病気が発生しやすくなるので、防除指針に従い殺菌剤を散布する。
- (3) 育苗中のものや定植直後のもので冠水被害を受けた場合、速やかに汚れを洗い流し、回復に努める。なお、回復の見込みがない場合は、除去し、苗があれば定植し直すか、再度播種準備を行う。
- (4) 定植直後のキンセンカ等は、寒冷紗や不織布をべたがけする。

## 5 水稻

### 事前対策

- (1) 排水路の詰まりの点検・補修を行い、冠水や滞水に備える。
- (2) 収穫済みの水田では、降雨により稲わらが浮遊し、集積、流出するのを防ぐため、稲わらのすき込みを行う。

### 事後対策

- (1) 倒伏、冠水による穂発芽を防止するため、早期に排水を図る。
- (2) 収穫時期に達した品種のうち、倒伏した稲は、穂発芽等が懸念されるため、早めに収穫するよう努める。
- (3) 穂が長時間浸水したほ場の稲は、他ほ場の稲とは区別して収穫、乾燥し、全体の品質を下げないようにする。
- (4) 晩生品種や晩植えした場合では、台風の通過後に乾燥した風が吹くと、稲体の水分が蒸発し、急性萎凋症状が発生するおそれがあるので、湛水し水分を供給する。

## 6 大豆

水田転換畑等では、排水溝を確実に排水路につなげる事や、畦畔を切る等で早急な排水対策を行う。

## 7 落花生

台風後に黒渋病が発生しやすいので、よく観察し、必要に応じて防除指針に従い殺菌剤を散布する。

## 8 畜産

### (1) 畜舎及び家畜

ア 天候が回復した後、直ちに畜産施設内及びその周辺の排水に努める。また、土砂が流入した場合には、再度の土砂流入等の事故に十分注意しつつ、土砂を除去するよう努める。

イ 畜舎、牧柵、防鳥ネット等の施設に破損、汚損がないか確認し、必要に応じて

補修、洗浄、消毒を行うよう努める。飲水に適した水の給与や飼養家畜の健康観察など、家畜伝染病予防法（昭和26年法律第166号）に基づく飼養衛生管理基準に沿った衛生管理を徹底し、家畜の伝染性疾病の発生予防措置を講じるよう努める。

ウ 倒伏の影響等により、品質が低下した飼料を給与する場合は、栄養価、嗜好性等にも配慮し、家畜の生産性が低下することのないように注意する。

エ 保管している飼料が冠水等の被害を受けた場合には、当該飼料の家畜への給与は中止する。

## (2) 飼料作物及び稲わら

ア 冠水や浸水等の被害を受けたほ場においては、速やかな排水に努めること。

イ 収穫期にある飼料作物は、天候の回復後に収穫を行うよう努め、トウモロコシ等の長大作物が倒伏した場合は、品質低下を防ぐため、天候の回復後、速やかに収穫を行うよう努める。

ウ 稲わらの収穫を行う場合は、天候の回復後、乾燥させた後、土汚れ等が無いことを確認した上で飼料に用いるよう努める。